全国の火山活動状況（1985年1月～3月）

気象庁地震火山部地震火山業務課火山室

気象庁が常時観測を実施している17火山のうち，精密観測4火山については，1985年1月以降3月末までの活動状況を，普通観測13火山とその他の火山については，火山情報，火山性異常の報告をうけたものの状況を要約した。

全国火山活動概況は第1表に，火山情報発表状況を第2表に示す。

第1表　全国火山活動概況（1985年1～3月）

Table 1. Volcanic Activity in Japan
(From Jan. 1985 to Mar. 1985)

Volcano \ Month	1	2	3
Sakurajima	▲	▲	▲
Asosan	●	●	●
Fukutoku - Oka - no - Ba		●	●

▲ Eruption　　● Anomaly

第2表　火山情報発表状況（1985月1～3月）

情報 \ 火山名	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島
定期	3	3	3	3
臨時	5	4		
火山活動				

桜島

噴火活動，地震活動とも高いレベルの活動を持続している。このため，噴石の落下による自動車のフロントガラスの破損，道路上の火山れきによる車のスリップ事故等の被害があった。噴火回数，爆発回数の月別推移を第3表に示した。

第3表　桜島火山観測資料

月	1985/1	2	3
噴火回数	32(20)	43(35)	57(54)
地震回数	4,006	4,017	4,182
微動継続時間合計(h)	201	180	182

(　)内：爆発回数

主な爆発とその状況は次のとおり。

●1月23日13時53分の爆発は，爆発音・体感空振ともに大きく，多量の噴石が3合目まで飛散した。空振は熊本市・延岡市・宮崎市・都城市・日南市および四国の宇和島市でも感じた。鹿児島市消防局東桜島分遣隊からの連絡によると，この爆発で桜島東部の黒神地区の道路に火山れき（最大径1㎝程度）が降った。

●1月29日07時13分の爆発は，爆発音・体感空振ともに大きく，火山雷を伴い，中量の噴石が6合目まで飛散した。空振は宮崎市でも感じられ，桜島南部の古里地区ではホテルの網入りガラスが1枚破損した。この爆発で，桜島南部の有村展望台付近一帯に火山れき（最大径1㎝程度）が降り，道路上の火山れきにより，車のスリップ事故が1件（道路標識を倒し，路肩で停止，負傷なし）あった。

●2月24日10時30分の爆発は，爆発音・体感空振ともに大きく鳴動や火山雷を伴い，多量の噴石を3合目まで飛散し，山腹の数か所で山火事が発生した。空振は宮崎市・都城市でも感じた。噴煙は4,000m以上の高さに上昇し，強風（9時の鹿児島上空1,500m付近で，北西17m/s，3,000m付近で，西北西33m/s）に乗り，大隅地方に流れ，噴石（最大径6㎝程度）が桜島南側の有村展望所から垂水市の牛根麓にかけて落下し，被害が発生した。

鹿児島市の消防局東桜島分遣隊・鹿児島県警鹿屋署調べでは車28台のフロントガラスが破損し，桜島口で公衆電話ボックスのガラス1枚が割れた。被害は牛根麓地区が多く，垂水市役所調べでは被害家屋は53軒にのぼり，瓦やスレート屋根が割れ，太陽熱温水器が破損した。その他，養殖ハマチの作業場やビニールハウスにも被害があった。

●3月31日13時46分の爆発は，体感空振が大きく，多量の噴石を5合目まで飛散し，空振は延岡市・宮崎市・都城市でも感じた。鹿児島市消防局東桜島分遣隊からの連絡によると，この爆発で桜島南側の有村展望所から身代湾付近にかけて，火山れきに混じって，最大径5㎝の噴石が落下し，車3台のフロントガラスが破損した。

阿蘇山

中岳第一火口の表面活動は，1月の初旬に少量の火山灰が観測されていた火口底東側の噴気孔は，白色噴煙となったあと，1月11日から，断続的に火山灰が噴出するようになったが，1月18日には，この噴気孔は少量の噴気だけとなって，ほとんど消滅状態となった。

一方，同じ日に，火口底中央部やや西寄りに，新しい火孔が開口し，鳴動を伴いながら，灰色噴煙を火口縁上700m位まで噴き上げ，火口縁で1㎝位の積灰があり，阿蘇山南部の高森町・白水村方面で少量の降灰があった。阿蘇山測候所では118g/m^{2}の降灰を観測した。1月21日，25日の夜間観測ではそ

れぞれ高さ５～６ｍ，７～８ｍの火炎が観測された。1月28日には白色噴煙となったが，２月４日から再び火山灰まじりの噴煙となり，火孔の直径は１０ｍ位に広がった。その後，断続的に火山灰まじりの噴煙活動を続けていたが，３月１日の現地観測では，活動が急に衰え，少量の白煙を噴き出す程度で閉塞状態となっていた。

また，この時，この噴火孔の北側４０ｍ位の所に，新しい噴気孔（直径約２０ｍ）が開口し，青白色まじりの白煙を噴出していた。活動の主体はこの新火孔に移り，断続的に火山灰を噴き上げていた。３月６日，１５日の夜間には，高さ１０～２０ｍの火炎が観測され，火口底は凹凸が激しく，一部には湯だまりも残っていた。

阿蘇山測候所は，１月１８日と３月１日に開口した新火孔を，それぞれ851火孔および852火孔と呼ぶこととした。

また，１月１８日噴出した火山灰の分析結果は古いものにまじって，新鮮な火山灰を含んでいることがわかった。

火山性地震回数・孤立型微動回数・火山性連続微動平均振幅の月別推移は第４表のとおりである。

第４表　阿蘇火山観測資料

月	1985/1	2	3
地震回数	30	37	18
孤立型微動回数（0.5μ以上）	1,790	1,638	3,418
連続微動平均振幅　（μ）	0.3	0.2～0.3	0.4～0.5

浅間山

１月から３月までの地震回数は第５表のとおりで，地震活動は引続き低調であった。３月の地震回数は，すべての観測点で1983年５月以来の最高となったが，過去２０年間の平均回数Ａ点１１７回，Ｂ点７４９回，Ｃ点５４３回と比較すると，まだ低い水準であった。

第５表　浅間火山観測資料（地震回数）

観測点＼月	1985/1	2	3
A	17	16	38
B	235	148	272
C	167	82	178
D	16	15	43
E	98	49	164

また，噴煙の色はすべて白色であった。噴煙の量も1月，2月に噴煙量3～4（中量～やや多量）が5日観測された程度で，噴煙高度の最高は1月26日，2月11日の400mであった。

浅間山周辺の湧水の水温，pH測定を2月13日，3月7日に実施したが，特に異常は認められなかった。

伊豆大島

1月から3月までの地震回数は第6表のとおりである。この期間中，大島およびその付近で起ったものと推定される地震が時々観測された。これらはすべて，大島測候所では無感であった。

第6表　伊豆大島火山観測資料（地震回数）

観測点＼月	1985/1	2	3
A	15	4	11
B	32	8	16
C	48	12	33

火口の現地観測を1月29日，2月22日，3月7日，4月2日に実施した。3月7日の観測によると，火口床からの噴気は火口床東部で増加したが，4月2日には，噴気の少ない状態に戻っていた。

岩滓丘の北壁が，頂部付近から下に約70m，幅約150m，厚さ最大10数mにわたって崩れ，火口底に落下した。これは2月20日ころに起ったものと推定された。